

第139号

編集・発行

2023・3・28

社会福祉法人
三戸町社会福祉協議会

〒039-0132

三戸町大字在府小路町17

TEL:0179(22)0262

FAX:0179(23)4146

さんのへ 社協だより

住み慣れた地域で、だれもが安心して暮らせるような福祉社会をめざしてがんばります!!



オレンジカフェふくじゅそう 座って出来る運動を楽しむ様子 (R5.2.21 町総合福祉センターふくじゅそう)

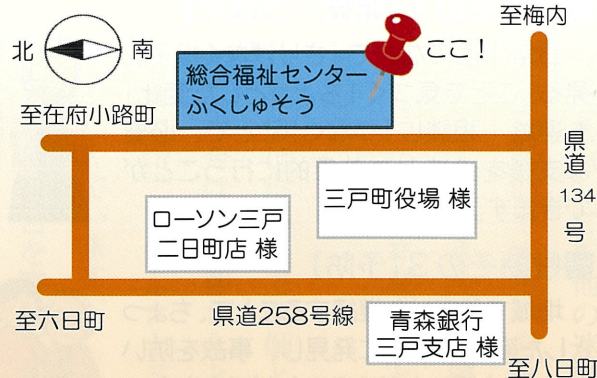
■お も な 内 容

ページ

- 令和4年度見守り活動研修会
高齢者等の見守りのしくみについて 2
- 昔とった杵柄 シルバー健在 3
- 各種お知らせ 4



社会福祉法人 三戸町社会福祉協議会



この社協だよりは、県共同募金会からの配分金と社協会費を使わせていただいております。

令和4年度見守り活動研修会～認知症について学びを深めました～

令和5年1月20日(金)、令和4年度第1回目となる見守り活動研修会をジョイワーク三戸で開催しました。当日は地域で高齢者等の見守りを行ってくださっている「ほのぼの交流協力員」の皆さんをはじめ、地域福祉関係者44名が認知症サポーター養成講座を受講しました。

講座の中盤では社協職員が寸劇を披露。息子夫婦と同居する認知症のおばあさんが、すでに無い自分の家に帰ると騒ぎ出す様子とそれに対する息子夫婦の対応を「お家に帰らせていただきます」と題して、コミカルに演じました。

講師の三戸町役場健康推進課赤石遥香氏には、認知症を巡る最新の動向にも触れてもらい、参加された皆さんには、たとえ認知症があっても、周囲の理解があれば住み慣れた地域で暮らしていけるということを再認識していただけた研修会となりました。



寸劇的一幕。家に帰ると頑なな義母をなだめる長男妻。夫と協力し、タクシーを呼ぶふりをしたり、散歩に誘ったりと、あの手この手で誤魔化す様子を演じました

認知症サポーターとは

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人や家族を温かい目で見守る「応援者」です。

認知症サポーター養成講座は、地域住民やスーパーマーケットの従業員、小中高等学校の生徒など様々な方が受講し、近所に気になる人がいればさりげなく見守る、認知症になっても友人づきあいを続けていくなど、**自分のできる範囲でサポーターとして活動しています。**

令和4年12月末時点で全国で14,307,790人がサポーターになっています。

■高齢者等の見守りのしくみ～ほのぼの見守りネットワーク事業～

高齢の方や障がいのある方など、地域の「ちょっと気になる方」が住み慣れた場所で安心して暮らしていけるように、それが三戸町における高齢者等を見守るしくみである「ほのぼの見守りネットワーク事業」です。

平成7年に30名のほのぼの交流協力員で試験的に始まったこの通称「ほのぼの」は、ボランティアである「ほのぼの交流協力員」をはじめ、民生委員児童委員・町内会・役場・地域包括支援センター・社会福祉協議会などの関係機関が連携して、見守りのネットワークを構築しています。

■どうして見守りが必要なのか～見守りの役割と効果～

■役割その1【発見・つなぐ】

日常生活のなかで「さりげなく様子を見る」ことで気づく「ちょっとした変化」を連絡・相談し「つなぐ」ことで、必要な支援を迅速かつ効果的に行うことができます。



■役割その3【予防】

地域で見守りを継続することで、ちょっとした変化を早期に発見し、事故を防いだり、最小限にとどめることができます。

地域のつながりが強まると、災害時の助け合いや犯罪予防にもつながります。



■役割その2【そっと見守る】

「人の世話になりたくない」という方もいますが、「そっと見守る」だけでも病気や怪我など、助けが必要なときに気づくことができます。



■まとめ

見守り活動によって得られる「気づき」の大切さがお分かりいただけたかと思います。見守る人が多様であればあるほど、より多くの「気づき」が得られます。

昔とった杵柄

シルバ ー健在



勝^{カッ}山^{ヤマ}政^{マサ}子^コさんの巻

昭和七年十月十八日生まれ 九十歳

お話を聞きに訪れた時も、せつせと毛糸編みをしていた政子さん「手先を使うのも『ボケ防止』よ」と、ちょうどセーターを編み上げたところでした。

昨年、90歳の卒寿を迎えた政子さんは、町内外の子ども達が医療で救われた勝山小児科医院の勝山信男医師のご夫人で、マントを風になびかせて自転車で駆ける姿を目にした人は多いでしょう。

その政子さんは、昭和7年に盛

岡市で、村井倉蔵、はな様の5人の子の長女として出生。幼い頃から坊主頭にされていたせいか、男児のように育てられ、近くで興行していたサーカスの、外に立たされた子をかくまうような気の強い子に育ち、今も自分のことを「ヤクザ」と言い張っています。

成長して洋裁和裁学校に入学したものの物足りなく、助産婦学校に入学、大学病院の小児科に就職したのが、勝山医師との出会いになりました。専門の決

まっていない勝山医師を小児科に決めさせたのも助産婦の政子さん。結婚する時、信男さんの実家、新郷村又重に単身乗りこんで家庭調べをし、三日間泊まるなど、「押しかけ女房なんです」と言います。そして結婚し、夫は勤務医として県立一戸病院に勤務、勤める人があつて昭和47年に三戸町に勝山小児科医院を開業し三戸町民となったのです。

その信男さんは令和3年に亡くなり、昨年10月夫の一周忌の追悼と政子さんの90歳卒寿の節目として、信男さんが趣味とした同心町の別荘のオーディオルーム(レコード音響室)で追悼コンサートを開きました。政子さんは日本歌曲の啄木の「初恋」などをゲスト歌手とみごとに歌唱、生まれた家が広がったので

大声を出しても他の迷惑にならなかったのですと、自分では歌うでなく「吠える」と謙遜。これをもって歌の卒業記念と名づけました。

長男は群馬県で医師として暮らし、今は次男伸さんと食事と喫茶の店、プロムナードの経営を楽しんでいます。

でも他人目を避けて神明宮の石段の登り降りをし体力づくりに励んでいることも白状、それがあつてか声量は九十過ぎても十分、周りから「卒業記念コンサートは大学の卒業、今度は大学院の入学記念コンサートを開いて」との声が上がっています。

入学記念コンサートの開催を楽しみにしていますよ！いつまでもお達者で！

(文責 川村亨)

善意の窓

ご寄附をいただいた皆様、ありがとうございました。

(令和5年1月1日～令和5年2月28日まで)

寄附金の部

- 匿名 様 50,000円
- 三戸中央病院看護師会 様 10,000円

物品の部

- NPO法人 沙羅双樹の会 様 米

寄せられた善意は地域福祉活動のために使わせていただきます。

令和5年度心配ごと相談所開設日カレンダー

4月 26日(水)	5月 31日(水)	6月 28日(水)	7月 26日(水)
8月 30日(水)	9月 27日(水)	10月 25日(水)	11月 29日(水)
12月 27日(水)	1月 31日(水)	2月 28日(水)	3月 27日(水)

■場 所 三戸町総合福祉センターふくじゅそう3階 小会議室3

■日 時 毎月最後の水曜日 午後1時から3時まで

■その他 予約不要ですが、事前にご予約いただくと、待たずに確実にご相談できます
開設日以外でも個別相談を受付けます。希望される方はご相談ください

ひとり暮らしの心細さや様々な不安は

福祉安心電話サービスにお任せください!

「急に具合が悪くなったら自分で救急車を手配できるだろうか」「転んで動けなくなったら誰か気付いてくれるだろうか」、高齢のひとり暮らしの方の多くが感じるこうした不安をボタンひとつで24時間365日対応の福祉安心電話サービスに任せてみませんか。

福祉安心電話サービスのしくみと主な機能



安心電話の本体

緊急ボタン

本体の緊急ボタンを押すと、青森市の中央センターが対応。状況を確認し、協力員や救急車を手配!

付属のペンダントでも緊急発信ができます



ペンダント。首に下げれば家中どこでも安心

火災報知器

熱を検知すると自動で中央センターに通報し「火事です」と警報を發します!



■対象者 ひとり暮らしに限らず、様々な方が対象になるので、**まずはご相談ください**

■料 金 三戸町からの補助金などで賄われるので、工事費や月額など**すべて無料**です

●お問い合わせ 三戸町社会福祉協議会まで TEL.22-0262 FAX.23-4146